



十和田市立 新渡戸記念館だより

Nitobe Memorial Museum Newsletter

第65号

青森県初!

地域の文化・自然遺産を未来へと守り伝える

日本ユネスコ “未来遺産運動”

祝

「太素の水プロジェクト」未来遺産 登録決定!

皆さまのあたたかいご支援をお願い申し上げます

「太素の水プロジェクト」は
稲生川開削と三本木原開拓の志を活かし
人と自然が共に創る郷土の伝統を
未来へつなぐ活動です



稲生川とその恵みで育まれた十和田市の田園風景



人工河川稲生川



稲生塾大行灯祭り



稲生川せせらぎ水路の水車



一本木沢ピオトープ園芸院

「太素の水」保全と活用連合協議会 活動団体 ◆稲生川せせらぎ活動委員会 ◆一本木沢ピオトープ協議会 ◆Kyosokyodo(共創郷土)
【支援団体】 北里大学獣医学部・水土里ネット稲生川・十和田市立新渡戸記念館

「太素の水プロジェクト」新たなるスタート

「太素の水」保全と活用連合協議会 会長
十和田市立新渡戸記念館 館長代理 新渡戸常憲

我々の「太素の水プロジェクト」が初めての申請で、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟「第3回プロジェクト未来遺産」に昨年12月選ばれましたことを心から嬉しく思います。思えば私が記念館に配属されてから間もない時期より、著名な先生方をお迎えし、記念館を始め稲生川や市内を案内するたびに、稲生川を中心に発展してきたこのまちの素晴らしさが全国的に認知されるべき、とのご指摘を受けておりました。そしてユネスコの「世界遺産」の国内版として3年前「未来遺産運動」がスタートした時から、登録申請を検討してきましたが、稲生川土地改良区・北里大学をパートナーに、稲生川せせらぎ活動委員会・一本木沢ピオトープ協議会・Kyosokyodo(共創郷土)の稲生川をめぐる市民活動について歴史をさかのぼって見直し、一つの「共創郷土」の理念のもと行われてきた「太素の水プロジェクト」として、一層連携をとりながら活動できる体制を整え、未来遺産に申請することができました。現在の我々を取り巻く環境を顧みれば、日本経済全体がそうなのですが、殊に大震災が以前にも増して我々を圧迫したのは紛れもない事実であります。だからこそ先ずは我々の足元を見なければならぬのであり、150年もの歳月、常に我がまちのために流れ続けて来た稲生川をそろそろ労わってあげてはどうでしょうか。そのためには先人たちが築き上げた稲生川の偉大さを本当の意味で心に刻み、稲生川で結ばれた絆を見直すことが第一歩です。まちの歴史を知らないことは決して良いことではありません。明るい未来を望むならば、今我々が真剣に互いに手を取り合って、共に助け合い、共に学び合うことこそ一番の近道ではないでしょうか。未来遺産登録を新たなスタートに、より良い地域を100年後の未来に遺すため、一層努力して参りたいと存じますので、同じ思いを持つ多くの方にご参画いただければ幸いです。



「太素の水プロジェクト」今後のスケジュール

「未来遺産登録証」授与式と市民フォーラムを開催します!

日時：平成24年3月18日(日) 授与式・フォーラム(後 祝賀会) 場所：サン・ロイヤルとわだ
※お問い合わせは「太素の水」保全と活用連合協議会事務局まで TEL 0176-23-4430 (新渡戸記念館内)

収蔵資料展2012

■会期：平成24年3月15日(木)～4月30日(月)
■会場：十和田市立新渡戸記念館 一階展示室
目録整理の成果や新収蔵資料を紹介する展示
お問い合わせ：十和田市立新渡戸記念館 TEL・FAX0176-23-4430 Eメール nitobemm@hi-net.ne.jp

新渡戸塾ギャラリートーク6

■日時：平成24年4月14日(土) 14:00～15:00
学芸員による「収蔵資料展2012」の展示解説会



新渡戸稲造
1862-1933

2012年で新渡戸稲造生誕150年——

記念事業の詳細は後ほどホームページでお知らせします www.towada.or.jp/nitobe/

EVENT

平成23年度 新渡戸塾こども講座

[十和田市立新渡戸記念館・十和田市教育委員会 共催]



寺子屋 稲生塾



ルーマニア文化について話すブクナールさんと新渡戸館長代理



ルーマニア料理を紹介するプラスリー MASUDA 増田保稔シェフ

プログラムその5 ★世界と友だちPART ①ー料理・音楽などの文化体験ー

■日時：2011年11月5日(土) 9:00~12:00 ■場所：十和田市中央公民館 ホール

講師に駐日ルーマニア大使館の文化担当官である三等書記官アンドレア・ブクナールさんを迎え、ルーマニアに長年留学していた館長代理が子供たちとブクナールさんの間をつなぐ進行役となり、ルーマニアの歴史や文化についてうかがいました。また、市内のフランス料理店・プラスリー・マスダ(増田保稔シェフ)の協力により、ルーマニア料理の鶏のスープ、ママリガ、サルマーレ、パパナンを再現し、ルーマニア音楽を聴きながら、ブクナールさんとともに試食しました。稲生塾生と保護者などおよそ40名が参加し、プログラムの最後に塾生たちは、体験の感想をルーマニアの子どもたちに宛てて書きました。今後、手紙の交換を行う予定です。



楽しい試食会の様子



書道体験の様子



茶道体験の様子

プログラムその6 ★「書の心は武士道の心ー書道&茶道体験ー」<閉講式>

■日時：2011年12月10日(土) 9:00~12:00 ■場所：十和田市民文化センター 茶室・邦舞邦楽練習場

書道体験では講師の大川綾園先生の指導で、塾生一人ひとりが「今年の一文字」を選んで色紙に書きました。茶道体験では、裏千家教授・稲本宗美先生がお茶の心得についてお話しをした後、実際に茶室でお茶とお菓子を作法に従って頂くとともに、お客様にお茶やお菓子を運ぶ作法も学びました。閉講式では小山田市長、新渡戸館長、米田教育長から修了証と太素塚のサラビ(ヒノキの亜種)から削りだした木札(「武士道の魂ボール」などの記念品が授与され、今後も稲生塾で学んだことを生活に活かして欲しいとの挨拶をいただきました。それに対して塾生代表の長畑賀子さん、長畑幸子さん姉妹(ともに5年生)が挨拶し「稲生塾では仲間と一緒に色々なことを体験することができた」「来年もぜひ参加したい」と話しました。

裏には塾生一人ひとりが選んだ武士道の言葉が刻まれているよ

稲生塾受講記念「木札」

昨年度に引き続き、稲生塾生に受講記念「木札」をあげることができました。この木札には、僅かに残っていた太素塚のサラビの間伐材を使っており、新渡戸館長が揮毫した文字を一つ一つ刻んで、手作業で仕上げられています。制作には(福)福祉の里・工房「プリコロール」と経商事株式会社のみなさまに協力いただいています。ありがとうございます。



株式会社のみなさまに協力いただいています。ありがとうございます。



閉講式では塾長・小山田市長から修了証が手渡されました

平成23年度 新渡戸塾モデルスクール事業

★『稲生川出前講座&脱穀体験』

平成23年10月28日(金)十和田市立南小学校では4年生を対象に昔の道具・せんばこきや足踏み脱穀機、唐箕などをつかった「脱穀体験」(講師：小笠原正さん、戸来陽子さん、澤口三夫さん、竹ヶ原公さん)を実施し、最後は皆で脱穀した玄米を精米し、粳から白米になるまでどのような手間が掛かっているか実際に見学しました。南小学校では当館からの出前講座(10月18日)で、稲生川工事道具の体験なども行い、三本木原開拓をはじめとする米作りに苦勞してきた当地の歴史に理解を深めています。



稲生川の工具・もっこ体験をする子供たち



足踏み脱穀機とせんばこき体験

★『行灯ワークショップ』寺子屋稲生塾・出前講座

150年まえの稲生川上水成功後、新町・稲生町で最初に行われた“大行灯祭り”にちなむ「行灯ワークショップ」(講師：工作屋台村 吉田紀美男村長)を行いました。地域の先人たちへの感謝の気持ちを込めて行灯を制作し、開拓の祖・新渡戸傳の墓所・太素塚の元朝参りや夏の大行灯祭りで飾りました。



下切田小学校にて



沢田小学校にて



ちとせ小学校にて

【平成23年度開催校】 十和田市立下切田小学校(平成23年6月8日) 法興小学校(6月22日) 沢田小学校(7月6日) ちとせ小学校(12月14日)

寺子屋稲生塾 活動の成果展

寺子屋稲生塾・第4回プログラム「とわだ時空調査隊ーまちの宝をさがそう!ー」[平成23年8月6日(土)・7日(日)]で塾生がまちを探検してまとめた壁新聞をはじめ、稲生塾の活動で子どもたちが制作した作品などを展示し、市民の方に活動の成果を見ていただきます。

今後の展示予定

- ★平成24年1月20日(金)~2月22日(水)
場所：青森銀行十和田支店ロビー(書道・絵画・作文などを展示)
アートステーショントワダ(まちの宝壁新聞を展示)
- ★平成24年2月26日(日)~3月25日(日)
場所：十和田湖公民館(まちの宝壁新聞・書道・絵画・作文などを展示)



平成23年8月24日(水)~11月30日(水) 青森銀行十和田支店ロビーでの壁新聞展示の様子

展示会場として協力いただいた 青森銀行十和田支店 下山明彦支店長から塾生へのメッセージ

寺子屋稲生塾の皆さんへ

皆さんが今回参加した稲生塾で、三本木原開拓の歴史や国際人新渡戸稲造の武士道精神について多くのことを学んだと思います。そして、まちなか探検で、実際に歩き、ふれあい、先輩の方々からお話しを聞き、テーマを絞り込んで取材し、まちの宝をみつめて、壁新聞を一生懸命みんなで作あげた経験は、将来きっと皆さんの大きな宝物になるはずです。この活動で体験した感動を心にきざみ、この経験を活かして、まだまだたくさんある十和田市のまちの宝をもっと探してみましょ。そして、今度は皆さんが十和田市のまちの宝を築く番です。モノではなく、皆さん一人ひとりの人材という宝物を。

平成23年度 新渡戸塾

協力：博物館によるまちづくり団体 Kyosokyodo

講演会 武士道を支える日本の心

講師：国際基督教大学 石川光男 名誉教授

■日時：11月12日(土)14:00～15:00 ■場所：十和田市立新渡戸記念館

国際基督教大学名誉教授石川光男先生をお迎えし、記念館展示室で「武士道を支える日本の心」についてお話いただきました。前日に市民文化センターで開催された市民大学講座「未来を創る人生、未来に伝える文化」で石川先生のお話を聴いて、ぜひ新渡戸塾にもと飛び入りで参加した方が多く、会場には60名の定員を超える聴講生が集まり、先生のお話に熱心に耳を傾けました。講演後には石川先生を囲んで「太素の水プロジェクト」メンバーの勉強会を行い、先生から活動を行う上で大切な姿勢や心構えなどについて、貴重なアドバイスをいただきました。



お話しする石川先生



呼吸法と脱力法から日本文化独特の「心技体一致」を体感することができました

★「絆」ギャラリートーク・わたしたちの未来遺産を考える(全6回) 土曜日 14:00～15:00 場所：十和田市立新渡戸記念館

「未来遺産」をテーマに開催してきた今年度の新渡戸塾ギャラリートークでは、異なった分野で活躍する市民エキスパートの方を講師に「未来に受け継ぎたい地域の遺産」をテーマにともに考えました。

4 10月15日(土) 第4回 一本木沢ピオトープをめぐる市民活動

講師：北里大学獣医学部 杉浦俊弘 教授

平成5年の稲生川遊休地再整備への提言から一本木沢ピオトープに関わっている杉浦先生に、これまでの経緯や市民活動の内容および未来遺産としての価値についてお話いただき、およそ30名の塾生が熱心に耳を傾けました。参加者からは「知らないから行けないというのではだめだと思いました。他の地域の人にも十和田市を誇れるような一人ひとりになるために今後もこの塾を活用したいです」「今日お話しを聴き一本木沢ピオトープに行ってみようと思いました」など地域の魅力に気付かされたとの感想が多く寄せられました。



講師の杉浦先生

5 11月26日(土) 第5回 文化庁「文化財レスキュー」活動報告会

講師：新渡戸記念館 小笠原純也 書記 / Kyosokyodo 共創郷土 新渡戸富恵 会長

当館小笠原書記とKyosokyodo新渡戸富恵会長が石巻市、陸前高田市などで参加した東日本大震災の被災文化財救出作業について写真を交えて報告し、およそ40名が熱心に耳を傾けました。活動を踏まえ、十和田市民として何ができるかについて新渡戸富恵会長は「実際にこの活動に参加できる人は状況的に限られますが、自分ができることは何かそれぞれ思い続けることが大切だと思います」小笠原書記は「復興に向けて博物館の連携の輪を広げていきたい」と話しました。



活動報告をする小笠原書記と新渡戸富恵会長

★稲生川穴堰ツアー 11月2日(水) 9:00～12:00

新渡戸塾オリジナルツアー「稲生川穴堰ツアー」を実施しました。総勢20名で太素塚を9:00に出発し、水土里ネット稲生川阿部俊主任の解説を受けながら、取水口までバスで移動、取水口の法量農村公園で下車し、稲生川の構造や機能について解説を受けました。その後胴長などの装備に着替え、稲生川国営用水路天狗山トンネルの全長1600メートルを水土里ネット稲生川の方々の補助を受けながら歩き、更に稲生川の流路各所をバスで見学しました。ツアー後、参加した方々から、新たなツアー案も寄せられましたので、次回のツアー企画に活かしていきたいと思えます。



国営天狗山トンネル入り口にて。胴長ヘルメットのフル装備でトンネルの中に入りました



無事穴堰を歩きぬいた参加者のみなさん

★日本文化体験・しめ縄づくり 12月17日(土) 14:00～16:00

稲わらで縄をない、お正月のしめ縄やクリスマスリースづくりを実施しました。永年農家として手仕事を伝えてきた小笠原正さんを講師に、定番のしめ縄のつくり方を教えていただき、今年の干支の「辰」型のしめ飾りや、しめ縄を丸くした現代風のしめ飾り、松ぼっくりや果物の飾りを付けたクリスマスリースを制作しました。縄をなう作業におおよそ30名の参加者たちは夢中になり、日本の伝統文化を楽しみながら身体で感じていました。参加した方からは「思った以上に上手に出来て大満足です」「また来年も参加します」との声が聞かれました。



講師の指導のもとで縄をなう参加者のみなさん



お正月用とクリスマス用の2種類のリースができました

トピックス 賑わった太素塚元朝参り



ちせ小学校4年生が制作した行灯を太素塚入口にかざりました



太素塚にお囃子を奉納するわ組有志のみなさん

平成23年12月31日(土)～平成24年1月1日(日)未明にかけて稲生川上水153年記念・元朝参りを開催しました。寺子屋稲生塾出前講座「行灯ワークショップ」で市立ちせ小学校の4年生が制作した「太素塚元朝参り行灯」と月星キャンドルあわせて200個で境内をライトアップしたところ、風もなく好天にめぐまれ、幻想的な光が太素塚を照らしました。大晦日22:00から元旦1:30まで甘酒、お神酒の無料サービスを実施し、年越しの頃には稲生町の十和田市中央町内会・わ組有志による神輿担ぎ唄「十和田祭り唄」と「十和田囃子」の太素塚奉納でにぎわいました。

★太素塚元朝参りの模様は俳優の永瀬正敏さんの写真展と特別番組「Aの記憶」でも紹介される予定です(詳しくは4面)

mini NEWS

太素塚清掃奉仕

・10月2日(日) 11月6日(日)
さわやかクラブ清掃奉仕



ありがとうございました

関連情報

▶十和田市・花巻市 新渡戸友好都市議員交流会研修会で太素の水プロジェクトが研修テーマに

今年度の十和田市・花巻市新渡戸友好都市議員交流会は十和田市で行われ、10月6日(木) 十和田市議会会議室において「寺子屋稲生塾と稲生川の保全と活用」と「十和田湖観光、震災の影響と再生」をテーマに研修会が行われました。十和田市生涯学習課佐藤俊文課長より稲生川の保全と活用に関わる市民活動「太素の水プロジェクト」について発表を行い、十和田市、花巻市両市議会議員の方々が理解を深めました。

▶俳優の永瀬正敏さんが太素塚元朝参りを撮影しました

今年の太素塚元朝参りを撮影しようと俳優で写真家の永瀬正敏さんが来て下さいました。これは青森朝日放送20周年特別番組「Aの記憶」[2月14日(火)19:00~20:00放映]と番組連動・永瀬正敏写真展[場所：青森県立美術館/会期：3月17日(土)~25日(日)]のためのもので、永瀬さんはこの企画のため青森県内のことを詳しく調べ、太素塚元朝参りについては、自らネットで調べた中でぜひ行ってみたいと要望されたものです。子どもたちの行灯によるライトアップや、十和田市中央町内会・わ組有志のお囃子奉納を見て、永瀬さんは「大晦日の伝統行事に子どもや若い世代ががんばっているのを見てとても感動しました」と話されていました。

永瀬正敏さん(中央)と



▶冬の官庁街の稲生川水路がライトアップされました

官庁街通りの稲生川水路には冬場水が流れていませんが、昨年12月3日(土)~25日(日)には、水かわりに青い光が美しい流れをつくっていました。今年は十和田市現代美術館前のアート広場や水路など官庁街通りの各所が青いLEDによるイルミネーションでライトアップされる他、市民文化センター前のD51などまちなかにも青いイルミネーションがとまり、幻想的な光につつまれました。



▶三本木原開拓の歴史を詠んだ漢詩を制作いただく

青森県芳吟会 桜川詩吟教場長 原田龍松(圭二)宗師(公益社団法人日本吟道学院公認審査員)が、三本木原開拓の歴史をテーマに漢詩づくり、その額装を当館へ寄贈くださいました。原田氏は青森県の活性化に一役買いたいと県内の名所を表現した漢詩の制作を行なっています。三本木原開拓をテーマとした原田氏の漢詩「新渡戸三代を顕彰す」は次のとおりです。

荒廃たる三本木原を開く 山巒険絶乾坤を阻む
水程の穴堰艱難を極め 天空に月星の旗印翻る

活動報告

▶館長講演会

平成23年8月19日(金)十和田市倫理法人会(演題：歴史は繰り返す=巨大地震に警鐘) / 11月11日(金)八戸聖ウルスラ学院教職員研修会(演題：学問より実行・知識より常識)

▶博物館関係会議出席

平成23年度日本博物館協会東北支部・東北地区博物館協会総会及び研修会[平成23年9月29日(木)~30日(金)/山形県山形市]ならびに第59回全国博物館大会[10月20日(木)~21日(金)/石川県金沢市/テーマ：地域と博物館]に館長代理出席。

▶館長代理が『日本教育』新年号に執筆しました



(社)日本教育会機関誌『日本教育』(平成24年1月号)新春特集「日本の将来を語る」に館長代理が「我々が創る未来」と題し、震災後の日本において、新渡戸稲造の武士道を見直し東西文化の融合と理性と情緒の調和をはかることの重要性について執筆しました。

▶青森県立郷土館「青森県博物館ロード」展へ資料3点を出品

青森県立郷土館の特別展「青森県博物館ロード」[会期：平成23年12月9日(金)~平成24年1月29日(日)]へ、イサム・ノグチ作『新渡戸稲造顔像』、朝倉文夫作『新渡戸稲造胸像』(原型からの復元)およびオリジナル台座、新渡戸十次郎筆『虎丸御軍船御造立之図』[嘉永3年(1850)]の3点を貸出しました。オープニングでは青森県博物館等協議会理事である新渡戸館長がテープカットに出席しました。

▶「太素の水プロジェクト」の未来遺産登録を青森県知事へ報告

「太素の水プロジェクト」の未来遺産登録が県内初であったことを受けて、稲生川土地改良区理事長・丸井裕典議とともに「太素の水」保全と活用連合協議会会長・新渡戸館長代理と同協議会理事・北里大学獣医学部杉浦俊弘教授が1月16日(月)青森県庁を訪れ三村申吾青森県知事へ登録を報告しました。それに先立ち、11日(水)に十和田市長、議会議長、教育長へ報告しました。

▶音楽学博士・音楽評論家として館長代理が活躍

音楽学博士・音楽評論家でもある新渡戸常憲館長代理が、平成23年11月9日(水)~11日(金)チェコ音楽コンクールピアノ部門(会場：チェコ共和国大使館ホール)、11月20日(日)・23日(水)日本ピアノ研究会主催ジュニアピアノコンクール及びピアノオーディション本選会(会場：千葉県民文化会館/川崎市男女共同参画センター)において審査員を務めました。また、11月22日(火)民音音楽博物館文化講演会(会場：カワイミュージック仙台店)で「フランツ・リストとロマン派の作曲家たち」と題し講演しました。『音楽現代』2月号(2012年1月15日発行)の特集『名演奏家の「おはこ」(2)~往年の名ピアニスト篇~25人の得意な作曲家・作品』では、アルトゥール・ルービンシュタイン、アルトゥール・シュナーベル、デイス・リパッティについて、それぞれの評論を執筆しました。



編集後記

思えば私の人生で初めてであった。あれだけ激しく揺れて、しかも長く、何度も何度も続いた大地震であった。大規模停電が2回。生活の利便性を追求しての電化製品も全く役立たず。首段の移動に欠かせない車もスタンドでは長蛇の列、スーパーは品薄の状態。東北の復興こそ今後の日本の再生に重要というが、その復興も進んでいないという。震災からおよそ1年経つが、決してひと区切りとの感覚を持つことはできない。色々な意味で痛みを分け合うのも、亡くなった方々や現在も避難生活を余儀なくされている方々への我々の絆の証としなければと思うのである。(館長代理 新渡戸常憲)

■ご利用案内

・開館時間：午前9:00~午後4:00
・休館日：毎週月曜日(祝祭日は開館) 年末年始(12/29~1/3)
・観覧料：大学生・一般210円(団体178円)
小・中・高校生52円(団体42円) ※団体は20名以上
十和田市民は観覧料が無料となっています



世界に通ずる私たちのローカル記念館を目指して

十和田市立 新渡戸記念館

Nitobe Memorial Museum

URL www.towada.or.jp/nitobe/

発行日

編集・発行

2012年2月1日
太素顕彰会・十和田市立新渡戸記念館
〒034-0031 青森県十和田市東三番町24-1
Tel & Fax : 0176-23-4430
Email : nitobemm@hi-net.ne.jp
株式会社 岩間印刷

印刷